

ねりま父母連 2025（R7）年度定期総会 議案書 2025（R7）年6月8日

〔はじめに〕

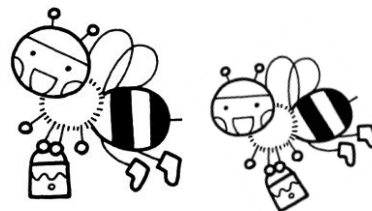
2016（H28）年春に「#保育園落ちたの私だ！」というハッシュタグが日本中を駆け巡り、保育園の待機児問題が社会問題となってから9年が経ちました。練馬区は、数百人規模の待機児解消のため認可保育所や地域型保育事業（小規模保育所や保育ママ）で定員を増やし、2021（R3）年度から5年間連続で「待機児童ゼロ」を達成したと喧伝しています。しかし、これには保育利用（入園）「保留通知」を受け取って育休を延長した世帯、「1歳児1年保育」「2歳児1年保育」と1年ごとの不安定な細切れ保育を余儀なくされた世帯、自宅周辺に空き定員がある施設を希望しない世帯などは数えられていません。一方、練馬区は区民の大切な公共財である区立「谷原保育園」を2026（R8）年度（2027（R9）年3月）に廃園する計画を進め、2024（R6）年度から谷原保育園の1・2歳児の受け入れ（30人分）を停止しました。周辺の保育園の希望倍率は3.7～23.8倍（1次募集）と気の遠くなる高さです。同時に、2025（R7）年度4月から、光が丘第2保育園、光が丘第11保育園、富士見台こぶし保育園の区立3園の0歳児クラスの募集を停止し、困惑する保護者が生まれています。国はこども基本法を制定しました。子ども優先の施策を進めることは子どもの権利条約だけでなく、法的に定められた時代になりました。子どもと保護者の立場に立って声を上げていく父母連の役割はますます大きくなっています。

練馬父母連（練馬区保育園父母連合会）は、子どもたちの最善の利益を守り、保育環境の充実を願う保護者の声の実現をめざして活動しています。「保育料の完全無償化」を長く訴え、2019（R1）年10月から幼児保育の無償化、2023年（R5）年10月から第2子以降の保育料の無償化（所得制限なし）、そしてついに2025（R7）年9月から第1子からの保育料の完全無償化を実現させる力となりました。新型コロナウイルスの拡大が2020（R2）年以来続く中、検温器の全園設置や、委託園・民間園の保育士への奨励金の支給を区内の他保育団体と共に実現させてきました。看護師・栄養士の全園配置を求める活動も継続しています。同時に、コロナ禍で各園の父母会の行事開催や保護者間の交流・活動が停滞し、5類移行後も各園の父母会活動を再興できず、困難に直面している状況もあります。そうした中であっても、保護者同士でつながり、子どもたちが健やかに育つことのできる練馬を求め活動を続けています。今年度の諸活動を振り返りつつ、今後の活動方向を提案します。

I. 2024 年度の活動を振り返って

〔2024 年度の主な活動〕

- ・5月26日（日）父母連総会
- ・6月9日（日）キッズパレード（共催）
- ・7月7日（日）「親子で聴こう！金管五重奏の世界」（親子イベント）
- ・8月28日（水）練馬区保育課に要望書提出・保育課長と懇談会
- ・9月8日（日）先輩パパ・ママによる保育園入園説明会（前編）（共催）
- ・10月14日（月・祝）先輩パパ・ママによる保育園入園説明会（後編）（共催）
- ・11月22日（金）桜台第2保育園「民間委託・民営化」懇談会





- ・12月18日（水）練馬区保育計画調整課と谷原保育園について懇談会
- ・12月28日（土）ねりま市民大望年会にて（合同）ブースを出店
- ・1月15日（水）練馬区保育計画調整課と貫井第2保育園について懇談会
- ・1月26日（日）「リズム運動」（親子イベント）
- ・1月28日（火）「すべての認可保育園に看護師・栄養士の配置を求める陳情」署名提出
- ・2月9日（日）父母連の連絡会議

〔10の柱の活動〕

（1）各園の枠を越えて、各園の父母会・保護者の情報を交換し、意見交流、学習を行った。

総会や連絡会議での懇談を通じて、各父母会の行事、保育環境、廃園問題、委託問題等について情報交換を行った。個別の園の枠を越えて、保護者の共通する願いや声を掲げ、保育の質の向上と子育て支援策の充実を求める活動に、陳情署名や第3期練馬区子ども・子育て支援事業計画へのパブリックコメントの機会をとらえ、父母連として取り組んだ。同時に、各園の保護者が取り組む保育環境の改善等の要求について、情報を収集し、他園父母会の力を集めるなど協力・共同の関係を築いて支援した。保護者の切実な要望に応じて活動することは父母連の大事な役割である。この間、父母連に園での事故とその対応についての相談が寄せられて区の担当課長との話し合いの場を設定するなど、保護者の声に応えた活動にも取り組んだ。

（2）谷原保育園の廃園計画に対して保育園児を守る立場から廃園反対の声を上げた。

2021（R3）年11月に区が突然通告した谷原保育園の廃園計画とその後の区の対応は、計画策定の経過説明と計画中止を求める保護者の要望を幾重に無視する乱暴なものだった。父母連は、子どもの発達保障に重大な影響を及ぼす人権問題として、閉園計画の撤回を求めて取り組んだ。区との懇談、谷原保育園保護者と保育計画調整課との懇談、区議会議員への働きかけなどに協力した。一昨年には、谷原保育園の廃園撤回の陳情署名に区内の保育関係諸団体と協力・連携し、13,279筆を集めた。

（3）区立保育園の民間委託化につづき、民間委託園の民営化を進める区にたいし、「公的保育を守れ」の声を上げた。

民間委託問題や栄養士・看護師の全園配置の要望など各園で抱える問題について、学習会や陳情署名活動を通して取り組んだ。民間委託の疑問点や問題点について繰り返し区に説明を求めた。父母連は委託対象園の保護者を支援し、区との懇談の機会に民間委託化の問題点を繰り返し指摘した。

（4）SNSの活用など、情報発信をすすめた。ホームページについては、経費の問題を含め、今後の扱いを引き続き検討した。

情報発信のためにウェブサイトやメーリングリスト、「X」（旧ツイッター）などソーシャルメディアを活用したが、父母連活動の担い手が不足していることから、その頻度については課題を残した。役員間の情報交流のため、主にLINEとZoomを活用した。ホームペー

ジでの情報発信も続けているが、維持・運営費の問題が引き続き検討事項となっている。父母連ニュースの未発行が今期最大の反省点である。

(5) 父母連参加の意義を伝え、父母連への加盟と参加を推進した。

機会をとらえて、各園保護者に父母連参加を呼びかけた。2020 年以降、コロナ禍で各園の父母会行事や保護者間の交流・活動の中止が相次ぎ、2022 年の 5 類移行後に父母会の活動休止や父母連から離れる父母会が相当数生まれている。新しい特徴は、対面での父母会総会を開催せず、オンライン上のアンケート機能を利用して、総意形成を図るケースが多いことだ。保護者同士でつながり、子どもたちの健やかな保育環境を求める父母連の活動の意義の伝え方も工夫が求められている。

(6) 保育園の入園を希望する保護者への情報提供に協力した。

9 月（前編）、10 月（後編）に練馬保問協（練馬区保育問題協議会）と共催で、「先輩パパ・ママによる保育園入園説明会」を開催し、入園を希望する保護者に体験談を語り、情報提供を行った。待機児童解消と保育の質の向上のため、区立 3 園の 0 歳児クラスの募集停止に反対、区立谷原保育園の廃園反対、認可保育園の増設、保育職員の処遇改善などを区に求めた。

(7) 保護者間の情報交換と活動推進を支えるために、父母連役員への参加と協力を呼びかけた。

(8) 父母連の財政難を打開するためのカンパをよびかけた。

(9) 親子で楽しめるイベントを開催した。

ねりま遊遊スクール事業の委託で、7 月「親子で聴こう！金管五重奏の世界」（参加者 80 名＋出演者 5 名）、2 月「リズム運動」（参加者 40 名＋出演者 3 名）を開催し、多くの親子が参加し、好評だった。父母連の活動を紹介し、「谷原保育園の廃園撤回/老朽化園舎の建替えを」「認可保育園の増設を求める陳情」「すべての認可保育園に看護師・栄養士の配置等を求める陳情」の署名を集めた。

(10) 練馬保育協、公保連など、区内の保育関係諸団体との交流・連携・協力を進めた。

保護者の声を行政に届けるため、「練馬区保育問題協議会（練馬保問協）」、「公的保育を守る練馬連絡会（公保連）」に参加し、練馬区内の保育園を取り巻く状況についての情報交換や要請行動、学習や企画をともにすすめてきた。「先輩パパ・ママによる入園説明会」や谷原保育園の廃園撤回の陳情署名活動、ねりま市民大望年会への（合同）ブースを出店、区への要請活動など多岐に渡り協力して行った。



II. 2025 年度の活動方針

2020 年以降、コロナ禍で停滞した父母会活動、保護者間の交流をどう進めるか、また各父母会の加盟によって支えられている父母連の活動をどう進めるか、財政的な検討も含めて、腰を据えた議論が必要になっている。2025 年度は、次の 7 つの柱を基本方針として活動を行う。

〔7の柱の活動〕

1. 各父母会活動、各保育園の情報交換を行い、父母会間・保護者間の交流を深め、保育の充実と質の向上をめざす
2. 保育に関する情報を発信し、保問協、公保連など、保育関係諸団体と連携しながら子育て、保育の充実をめざす。
3. 民間委託、民営化に関する情報を共有し、区や区議会に要望を出していく。
4. 保育園への入園を希望する保護者への情報提供と、待機児解消にむけた認可保育園の増設・拡充、とりわけ保育の質の向上をもとめていく。
5. 谷原保育園の廃園計画に対して保育園児を守る立場から廃園反対の声を上げていく。
6. 親子で一緒に参加できるイベントの開催を願う保護者の要望に応えるため、親子で楽しめるイベントを企画する。
7. 父母連活動の担い手の不足の解消、財政難の打開を図る。

★【参考】これまでも父母連は園児と保護者の多くの願いを実現してきました（一例を以下に紹介）。

- ・2階施設の保育士削減計画に反対するため民放テレビに出演して、保護者の声を訴えた。
- ・保育料の値上げ計画に陳情を提出し、値上げの減額を実現した。
- ・東日本大震災直後に全園の耐震検査の実施、コロナ感染症対策を区に求めた。
- ・新型コロナ感染を受け、全園に検温器を設置させた。委託園・民間保育園の保育士に奨励金の支給を実現させた。

- ・全園に看護師と栄養士の配置を求めてきた。家庭的保育施設での給食を実現させた。

☆その他、多数。

父母連は、ひきつづき園児と保護者の願いにこたえるための活動をすすめていきます。



III. 2024 年度決算報告、 2025 年度予算案 （別紙）

<付録>

- ・練馬区保育園父母連合会会則
- ・保育園一覧マップ